

「5本の樹」計画開始以来の

実践報告

2

生態系 ネットワークの復活



生態系ネットワークの復活には、効果が表れるまでに最低10年単位の年月がかかります。成果が見えにくく、経済的なメリットもすぐには表れにくいこともあり、継続的に取り組むには長期的視野を持った「生物多様性」事業計画が必要です。当社では「里山」を手本にした「5本の樹」計画を2001年からエクステリア事業の根本思想に据え、生物多様性に配慮した庭づくり・まちづくりを展開しています。

樹木を単に植えるだけでなく質にこだわり、在来種中心の計画を行い、専門家を育て、維持していくことが持続可能な社会をつくり上げていくことの基本であると考え、取り組みを続けています。



研修風景(土壌改良実習)

これまでステークホルダーと取り組んできたこと.....

一邸から地域へ社会へ広がる「5本の樹」計画

年間植栽本数・累積植栽本数の推移



良い住まいは「家」と「庭」が一体となって、初めて完成すると考え、外構・造園計画を建物の設計段階から一体に考えていく「敷地まるごと設計」を推進し、戸建住宅や分譲団地において「5本の樹」計画の家づくり、まちづくりを進めています。また、賃貸住宅でもその思想を反映した、緑あふれる「シャームゾン ガーデنز」を展開。オーナー様、入居者様双方にメリットのある計画をしています。加えてマンション事業・開発事業のまちづくりにおいても積水ハウスの「5本の樹」計画はエクステリア事業の根本思想となっています。

その結果、多くのお客様のご理解とご賛同をいただき、「5本の樹」計画開始の2001年から植栽してきた樹木の本数が2013年12月末で累積1000万本を達成しました。2012年度に初めて100万本の大台に乗せた年間植栽本数も、2013年度には106万本にまで増やすことができました。

今後も生物多様性に配慮した「5本の樹」計画の庭づくりで、一邸一邸からまち全体へ、さらに地域へ、そして社会に広げ、業界をリードしていきます。

未来に向けてステークホルダーと実践すること.....

緑の専門家の育成でさらに緑化を推進

今まで植栽してきた1000万本もの樹木を維持し、さらに未来に向けて植栽を増やし続けていくには、エクステリア担当のスキルアップが必要です。当社では、「グリーンエキスパート」(以下GE)という社内制度を設け、緑の専門家を養成するハイレベルな研修を開催しています。2013年には新たに20人がGEの認定を受け、各地で活躍しています。これでグループ内のGE総数は65人になりました。そのうち14人が「樹木医」の資格認定を受けています。一企業グループとしては最大級の人数を誇っています。一般的な緑化だけではなく、積水ハウス独自の「生物多様性」に配慮した質の高い緑化の実現を目指しています。

植栽本数が1000万本を達成

**ECO
FIRST**

 生態系ネットワークの
復活を積極的に
推進します

■「庭木セレクトブック」リニューアル

植物と野鳥および蝶との関係を示した庭木図鑑「庭木セレクトブック」を改訂し、「SLOW & SMART」の暮らしに楽しくアプローチできるようにしました。写真に埋め込んだ情報を読み取り、自動的に動画にアクセスできるAR^{*}を新たに導入しました。

※AR(augmented reality): 拡張現実



ARから動画が見られる

■「5本の樹・野鳥ケータイ図鑑」サイトをスマートフォン版にリニューアル

従来の携帯サイトをスマートフォンからアクセスできるようにリニューアルしました。自然や環境について楽しく学べるようにしました。



スマートフォンサイト

- 鳥24種(鳴き声も聞ける)
- 蝶24種
- 樹木92種を掲載

サイトトップページからアクセス

<http://5honnoki.jp>

「シャーマゼン ガーデنز」を積極展開

「シャーマゼン ガーデنز」では、「5つの環境プレミアム」(①街並みとの調和 ②自然環境の保全と再生 ③環境負荷への配慮 ④快適性を高める設計 ⑤安心・安全をもたらす設計)を新たな指標とし、建物とともに「5本の樹」計画に基づいたエクステリアの提案を行っています。緑豊かな賃貸住宅は入居者様にとっての住環境を向上させ、オーナー様にとっても空室率や賃料の下落を抑え、資産価値の向上を実現しています。その取り組みが植栽本数の伸びにつながっています。

VOICE



植物が大好きなので、オーナー様に植栽による効果を具体的に語るようにしています。身近に樹木があることにより四季の変化に敏感になること、日を浴びた葉の木漏れ日の気持ちよさ、花が咲いた時の喜びや匂い、そこに集まる鳥や蝶。樹木は生活する上で大切な付加価値を与えてくれます。効果をお話することでオーナー様や入居者の方も植物に対し愛着を持ち、ネガティブになりがちな管理や病虫害に対する意識も変わります。その結果、植物による豊かな生活の有用性を感じてもらえるので、これからもまちに緑を増やし、入居者様のみならず地域の人々にとっても心地よい環境を創っていききたいと思います。



積和建設神奈川株式会社 エクステリアデザイナー 黒川 裕

■都市型3階・4階建て住宅でも緑化を推進

敷地の有効活用の目的や住まい方の多様化に伴い、3階・4階建て住宅の需要が伸びています。特に都市部では庭に樹木を植えることがままならない敷地も多く、平面的な緑化に苦心しています。緑の視覚効果やヒーリング効果なども考慮し、上階でも「スローリビング」を体感してもらうため、今後壁面緑化等で垂直面の緑も提案していきます。



壁面緑化を導入した渋谷展示場「ピエナ青山コレクション」

■「希望の壁」が完成

建築家・安藤忠雄氏の発案を受け、本社のある新梅田シティに巨大緑化モニュメント「希望の壁」が2013年10月に完成。独立の構造物として世界最大級となる高さ9m、長さ78mの人工緑化ウォールには、約100種類、2万本もの樹木や草花を計画的に配置しています。同敷地内の「新・里山」と同様に近隣の方々に親しまれはぐくんでいくことで、地域に貢献していきます。



「希望の壁」と梅田スカイビル